

C-1 指導案

- (1) 小題材名 **「食品の栄養的特質を知ろう」**
 (2) ねらい ・食品の栄養的特質について関心をもち、食品成分表を用いて調べることができる。
 (3) 実践的・体験的な学習活動（豊かな体験）の工夫
 体験2：試験紙や試験液を用いて、食品には栄養素が含まれていることを調べる。目に見えない栄養素を実感し、食品に含まれる栄養素に関心をもちさせる。
 体験3：食品あてクイズを通して、食品に含まれる栄養素について食品成分表で調べる。クイズを楽しみながら、食品成分表の使い方に慣れ、食品の栄養的特質に関心をもちさせる。
 (4) 準備・資料等
 実験用食品 たんぱく質検出試験紙 ヨウ素液 食品カード 成分表ものさし 写真
 (5) 本時の展開 (第3次 1 / 1時)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価場面・観点・方法
(分) 5	五大栄養素について確認する。 本時の学習内容を知る。 「食品の栄養的特質を知ろう」		
20	体験2 たんぱく質・炭水化物（でんぷん）の検出実験 <ul style="list-style-type: none"> さつま汁の材料について、たんぱく質や炭水化物の含まれる食品を予想する。 グループで豚肉・里芋・人参についてたんぱく質と炭水化物（でんぷん）の検出実験を行い、実験結果をまとめる。 食品成分表を使って、豚肉・里芋・人参それぞれ 100g 中に含まれる主な栄養素を調べる。 豚肉と里芋は帯グラフから、人参は、写真より 100g 中に含まれる主な栄養素を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法を確認する。 予想を立てて実験し、栄養素に関心をもちさせるようにする。 食品成分表の見方を確認する。 成分表ものさしの使い方を確認する。 ☆食品成分表の見方がわからない生徒には、個別指導する。 人参については、カロテンが写っている写真を見せる。 食品には、いろいろな栄養素が含まれていることに気づかせる。 	<p>評価場面</p> <p>グループでたんぱく質・炭水化物（でんぷん）の検出実験に取り組む場面</p> <p>関心・意欲・態度③ 食品の栄養的特質に関心をもち、実験や食品あてクイズに取り組んでいる 【行動観察】</p>
10	体験3 食品あてクイズ <ul style="list-style-type: none"> 食品に含まれる栄養素についてのクイズを行う。 <p>「1番多いのはどれ？」 (例) 100g 中に1番ビタミンAが多く含まれるものは？ ①人参 ②ピーマン ③トマト</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が予想を立て、食品成分表で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素が多く含まれる食品を予想し、関心をもちさせるようにする。 ☆食品成分表の見方がわからない生徒には、個別指導する。 100g 中に含まれる栄養素の量だけではなく、1回に食べる量についても考えさせる。 1回で食べる量を実物（わかめ）で提示する。 	<p>評価場面</p> <p>食品あてクイズに取り組む場面</p> <p>関心・意欲・態度③ 【行動観察】 生活の技能③ 食品成分表を用いて、食品の栄養的特質について調べることができる 【ワークシート】</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 食品は、栄養的特質により6つに分類されることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回で食べる量を実物（わかめ）で提示する。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 自己評価をする。 時間があれば発展課題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価をする上での4段階のおおよその目安を知らせる。 個々の気づきを認める。 	<p>評価場面</p> <p>今日の学習を振り返る場面</p> <p>関心・意欲・態度③ 生活の技能③ 【自己評価】</p>

- (6) 評価方法 行動観察 ワークシート 自己評価